

# 飼料用水稲品種の紋枯病抵抗性

○大内田真・佐藤光徳

(鹿児島県農業開発総合センター)

## 【目的】

暖地水稻の重要病害である紋枯病の抵抗性には品種間差異が認められ、そのうち主食用日本型水稻には抵抗性を示す品種はみられないが、飼料用のTetepをはじめ、インド型由来の他用途米には抵抗性を示す品種があることを前報で報告した(大内田ら2008)。

飼料用水稻は輸入飼料価格高騰や自給率向上対策のため、栽培面積は拡大傾向にあるが、収益性の確保が課題となっている。コスト低減のためには病害抵抗性の有無が重要な要素となるが、紋枯病抵抗性への知見は少ない。そこで、主な飼料用水稻について紋枯病抵抗性の評価・検討を行った。

## 【材料および方法】

2008年に鹿児島県農業開発総合センターにおいて、紋枯病抵抗性の検定を行った。供試した飼料用水稻品種系統および指標は第1表のとおりである。5月13日に1株1本の手植えて移植し、7月3日にふすま+籾殻培地で培養した紋枯菌を接種した。抵抗性の調査は9月3日に行い、調査法は前報と同様に発

病度を用いた。また、出穂期、稈長、穂長、穂数、稈の細太も併せて調査した。

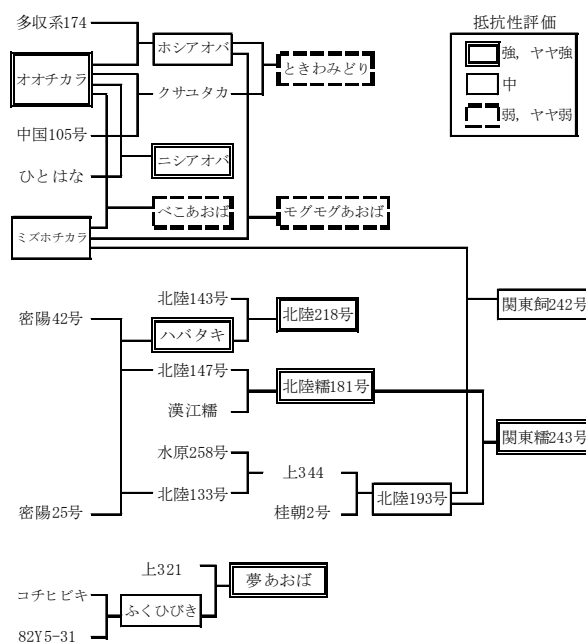
## 【結果および考察】

紋枯病抵抗性は Tetep, ニシアオバ, ハバタキが「強」、ミナミユタカ, 北陸218号, 夢あおば, 関東糯243号, オオチカラが「やや強」と判定され、21系統中8品種系統が「やや強」以上の評価となった(第1表)。稈長は Tetep, ミナミユタカ, 関東飼242号が著しく高かったが、発病度はそれぞれ「強」、「やや強」、「中」の評価であった。一方、短稈の夢あおばにおいても「やや強」となり、稈長と発病度との関連性は低かった。また、出穂期と発病度の関連も認められなかった。系譜図(第1図)をみると、今回供試した飼料用水稻はオオチカラ, ミズホチカラ, 密陽42号/密陽25号に由来するものが多い。このうち、オオチカラと密陽42号/密陽25号に由来する品種系統は抵抗性を示すものが多く、これらは稈が極太の特徴がある。今後は稈質と抵抗性との関連性をさらに検討する。

第1表 飼料用水稻の紋枯病抵抗性と諸形質

品種系統名	紋枯病抵抗性		出穂期 月日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m <sup>2</sup>	稈の 細太	備考
	発病度	判定						
Tetep	0	強	8.03	135	35.2	247	5	
ニシアオバ	4	強	7.30	80	21.7	161	7	
ハバタキ	5	強	7.20	79	26.0	179	8	
ミナミユタカ	6	やや強	8.01	110	31.4	131	8	
北陸218号	9	やや強	7.23	87	26.3	152	8	
夢あおば	10	やや強	7.16	67	20.3	134	8	
関東糯243号	12	やや強	7.29	88	25.8	152	8	
オオチカラ	13	やや強	7.18	75	20.1	190	8	
関東飼242号	18	中	8.03	105	24.4	167	8	
北陸193号	18	中	7.29	86	27.6	196	8	
ミズホチカラ	19	中	8.01	64	21.5	167	6	
クサノホシ	21	中	8.04	83	21.4	155	6	
タチアオバ	23	中	8.14	93	25.1	155	7	
ホシユタカ	23	中	8.06	75	14.6	193	7	
ふくひびき	23	中	7.11	61	18.2	161	6	
関東飼231号	25	中	7.19	79	20.2	152	7	
ホシアオバ	28	中	7.21	82	23.4	164	6	
中国飼198号	32	やや弱	8.10	85	23.4	131	5	
ときわみどり	33	やや弱	7.22	91	22.3	116	6	
モグモグあおば	42	やや弱	8.01	82	23.1	185	7	
ベこあおば	48	弱	7.15	66	21.4	158	6	
WSS3	3	強	7.27	88	21.8	265	5	指標
北陸糯181号	9	やや強	7.28	82	25.3	131	8	指標
夢十色	26	中	7.23	82	25.1	164	7	指標
日本晴	35	やや弱	7.23	76	21.3	170	5	指標
コシヒカリ	44	やや弱	7.16	88	19.9	214	5	
ヒノヒカリ	45	やや弱	8.01	76	17.7	202	5	指標
ミネアサヒ	48	弱	7.19	74	20.8	182	5	指標
初星	53	弱	7.13	74	19.9	202	5	指標

注) 稈の細太は、遠視で評価し、2極細、3細、4やや細、5中、6やや太、7太、8極太とした。



第1図 飼料用水稻の系譜図と紋枯病抵抗性 (抜粋)

注) 交配時点では系統だったものも、ここでは品種名で表記した。